

一は八十三縣五百四十七郡の一個佛蘭西共和國を組織したり。斯くの如く日本の封建的分立佛蘭西の大小侯國の獨立を統一せし革命的建設に比せよ。已に一主權者の下に統一せられたる跡を繼ぐに過ぎざる支那の郡縣的統一は其の難易殆ど同一の談にあらず。否、支那が日佛の如く其の中世史に於て封建君主の獨立的統治を見ざりし所以の者、一に山岳湖沼の天然的區劃なき地理に原因するを察せよ。然らば黄河と揚子江の大平野を眺めたる旅行者は、何が故にナイル河を涉りて埃及の中央集權なるべきを看破せし奈翁の如くならざるや。米國植民地を翻譯せる虛名空言のラファエツトは故國に歸へりて二十三の小共和國の聯邦を夢想して斷頭臺に引かれたり。是れ相似たる孫君が將に相似たる運命に趨りつゝあるに對照すれば足る。墨其古の動亂絶えざる所以は米制に禍されたる各州の獨立的權力に在り。彼れの各州は支那の各省都督制の如し。第一革命を序幕にて閉ぢたる所以第二革命に國民の加擔せざりし所以は實に各省の獨立的權力による武力的抗爭が支那の存立の爲に許すべからざる危険なるを覺醒したるに基く。然らば各省を打破して盛唐の都縣制に統一

せんとする中央集權の大總統は國家と國民の讚歎して止まざる所なるべきは論なし。而して中世的代官階級は或は都督となり縉紳となりて諸省に残存すべきが故に、自己等を掃滅せんとする新權力者に對して極力抗爭し、恐くは外國の後援を引きて對立を計ること佛蘭西貴族等の如くなるべし。——解決は文士の空論に非ずして兵馬の間に現はる。始皇帝の儒教撲滅效策に反動して勝てる漢皇に向て彼の文士空言を爲して曰く。沛公馬上を以て天下を取れり、而も馬上を以て天下を治むべからずと。何たる愚教ぞ。古今東西を治むるに馬上を以てせざる者なし。現時の所謂武裝的平和と名くる者明かに武力を以てせずんば平和を保つ能はざることを實證する者。馬上を以て取らざる天下は孫文の如く、馬上を以て治めざる天下は尙袁世凱の如し。見よ、今の獨逸は馬上によりて起り、馬上によりて統一し、馬上によりて富強となりつゝある生ける證據にあらずや。彼が統一されざる分立時代の醜態を見よ、殆ど袁世凱の支那の如し。佛蘭西の侵入軍に對して先きを争ひて降り數十騎の召喚によりて堡壘の陥落せることは清末の如く、首都に入れる佛蘭西國民軍に媚を獻するは朝鮮人

よりも醜くかりき。イエナの敗戦に至ては舊都ケーニヒスベルヒに蒙塵して償金一億三千万法を支拂ひ國土の半ば以上を割譲し、實に僅々四萬二千以上の常備軍を養ふ能はざる條約に調印せしめられたり。シルレルの愛國的叫號なくビスマークの鐵血政策なくんば、今の獨逸は五十年前に地圖面より抹消されたる者なり。支那が墨其古たるか獨逸たるかの決論は叛逆すべき各省を討伐して遺類なからしめんとする武斷的大總統の有無に存す。當年の佛蘭西が二十三の共和國にて隣強の分割同盟より免かれしと言はゞ可。今の日本が三百諸侯を獨立せしめたる聯邦國にて露西亞と戦ひ得べしと言はゞ可。——佛蘭西と等しき分割の危機に面して而も對露一戦を斷行せざるべからざる今の支那を觀察するに、各省の自治聯邦を言ふ者の如きは斷じて學者の見識に非ず、顧問の市價をだに有せず。支那の革命は維新革命に多くの啓發を受けたり。今の生ける日本人より何者をも指導さるゝにあらず。嘗て故宋君法制院總裁たりし時呶きて曰く、余は知識材料を供給する助手としての日本人の學者を顧問に求むるのみと。維新革命其者を理解せざる如き現時の卓上觀察と書齋的斷見

とによりて支那革命の進展を褒貶するが如き現時の日本を見て、不肖は甞に隣國の不幸のみならざるを恐る。(故に曰く、顧問の押賣の如きは深く顧みること(を要すと。))

此の武斷政策に依る郡縣的統一は當然に中華民國を軍國主義の上に築く者なり。即ち不肖は革命の支那が一大陸軍國たるべき可能的目的に向つて躍進すべしと推斷せんと欲す。愚呆と驕慢とは一齊に嘲笑して云はん。足下の議論は自家撞着にして且つ一種の樂天的空想なり。足下の言ふが如く支那が文士教に毒されし理由は一大陸軍國たるべき推論を許さざるものなり。十年間に廿五萬哩の鐵道と五百萬の兵を得べしと放言せる孫逸仙は足下の空想家なりとする所以の一に非ずやと。然り、自家撞着なるが故に革命は眞理なり。不肖は孫君の空想を是認し保證するものなり。諸公。革命とは數百年の自己を放棄せんとする努力なり。制度に對する自己破壊は即ち國民的信念に對する自己否定なり。見よ、佛蘭西の建國より中世史迄は其の信念と制度とを凡て基督教の帝王神權説によりて立てたり。從て近代革命は帝王の神聖を打破す

ると共に當然基督教に對する信念の否定となれり。神の代はりに女優を祭り、愛の代りに『道理』を拜し、舊教の寺院に亞ぎて新教の僧侶に奪ひ、基督の禁ぜし凡ての背徳亂倫を爲さずんば王黨の嫌疑を蒙むり、『道德家なるが故に』ギロチンに引かれざるを得ざりき。建國以來佛蘭西の凡てが基督教による生活なるに係らず、彼等は基督以前の希臘羅馬の『異教的文明』に信仰と制度とを求めたり。従て今の彼に存する教會は單なる形式の殘骸にして、一點の信仰に非ざることは政教分離によつて證明せらる。統治的階級の信念となり、國民大多數の心的傾向に信仰せらるゝならば、反對的信念の存在を認容せざる國教の強迫に至るべきは人性と歴史に鑑みて明白のとなり。奈翁の後一種のリヴァイバル的現象を呈せしは基督教的信仰の洗練されて復活したりといふも可。而も徹底的に理解すれば羅馬文明の萬神教によりて——基督も亦多神中の一神として——許容さるゝに過ぎず。絶對多數の歐米人の信念は羅馬の現世教の如く、裸體美を讚美して亂倫淫蕩至らざるなき肉慾教なり。即ち基督教的信念は佛蘭西革命に於て制度と共に亡びたる者なり。——革命の自己否定が一國民をし

て建國精神をなせる文明より一轉せしむること概ね斯くの如し。然らば革命の支那が孔教の文士制度と共に其文弱文明を否定して蒙古共和國の軍國主義に急轉し得べき事は、實に革命なるが故の眞理なりとす。革命なるが故の眞理が歐米人を一朝に全然異なる古代文明の民主的制度和肉慾的信念とに改造せしめたり。然らば中世史蒙古の尙武的一大陸軍國に支那の制度と信念の革命さるべきは推想し得べし。諸公。翻譯的低腦兒の口を藉るが故に孫君の五百萬強兵説は空想家の空言なり。彼は革命の根本義が傳襲的文明の一變、國民の心的改造に存する事を理解せず。一に白人を以て先進國なるかの如く崇拜するの餘り、其皮相を模倣して足れりとするに過ぎず。根據なき言論の空想なるべきは論なし。同一なる民族が同一なる信念と同一なる制度に改造せられたるならば、略々同一なる結果を推想し得べしとする不肖の根據は、彼徒の其れと自ら選を異にする者なりと信ず。實に凡ての國家と民族の興亡は信念の盛衰に根源す。羅馬が或る信念によりて興り或る信念によりて亡び、波蘭土が或る信念によりて興り或る信念によりて亡び、佛蘭西が或る信念によりて興り、獨

逸が或る信念によりて亡びんとし、而して或る信念によりて蒙古人の彼れが如く偉大なりしもの、或る信念によりて今の如く貧弱なる、——是れ古今東西興亡の神髓なり。亡國教の爲めに常に異人種の侵迫に悩みし支那が、或る偉大なる他の者の把握によつて却つて倒まに征服の鐵鞭を擧ぐる一大陸軍國に至り得べきは一に唯革命なるが故の眞理なり。凡ての鍵は國民の心的傾向なり。亡國階級に率ゐられたる當時の佛蘭西軍隊と革命政府の下に集まれる無訓練烏合の國民兵との差等を一顧せよ。將校の凡てが貴族に占有されしこと恰も維新前の武士が護國の權利を獨占せし如くなりしが爲めに長劍肥馬の美は至れり。而も奧太利一國の交戦に用ひし時一兵を見ざるに營を棄て、逃がれ一彈を放たずして走れること殆ど滿洲旗人に等し。佛蘭西革命が歐洲を征服したることは奈翁の軍略與からざるに非ずと雖も、歸する所國民の自由的覺醒に依る國家的信念に存す。見よ、奈翁の現はれざる以前土耳其を撃破して來れる新勝の獨塊同盟軍に對戦せしものは、實に貴族の亡命したるが爲めに指揮官を失へる五萬の補充兵と九萬五千の市民農夫の烏合なりしに非ずや。彼等は自

由の覺醒によりて國家が王貴族の私有財産に非ずして彼等自身の責任に存する信念に赤熱したり。彼等は其の權力階級の逃亡によりて些の防禦力なき裸體の國家を負へる者なりき。彼等は侵入軍がセダンに陣しロングビーを陥れヴェルダンを砲撃しつゝある絶望的亡國を守らざるを得ざるに加へて、嘗て己等の支配者たりし人々が敵の嚮導をなし、王其人の賣國奴を處置せざるべからざる未曾有の内憂を持てり。彼等は更に英艦隊に擁護せられたるルキ十七世のツィロンに擧兵せるを防がざるべからず。是れを支那に取りて説明すれば、英露の分割同盟軍に日本の参加し今の各省部督諸將軍等が其の嚮導をなすに對して、年少なる革命政府と擾々たる農民とが護國軍を組織せりと云ふことなり。諸公。同一同時代なる佛人にして亡國階級に率ゐられし時は今の支那軍隊よりも怯懦に、自由的覺醒による國家的信念に立てる時は三國同盟軍を撃退して奈翁に些の遺憾を感じしめざりしに非ずや。自由意志に基く信念覺醒なき時代の獨逸が佛蘭西の自由的國民軍に降伏せし時間は一週日半を要せざりき。其卑怯無氣力にして非愛國的なりしとは宗社黨の公達も及ぶべからざる

醜態なりき。而も自由と統一を得たる後の彼等はビスマークの指揮の下にルキ、ナポレオン皇帝と、將軍六十六人と士官六千人と卒十七萬人とをセダンに捕虜とせるに非ずや。否、七百年の中世史を武士專制を以て一貫したる戒嚴令政治の日本と離れ、幕府の亡ぶるに當つては如何。單なる砲撃に驚きて三百年の主權者は將軍旗を大阪城に忘却せるほどの狼狽を以て遁走したり。而して更に驚くべきことは數萬の武士階級中一人の立ち歸りて是れを取らんとする勇者なく、市井の匪徒新門辰五郎を煩はして漸く全きを得たるほどなりき。是れ黃興の逃亡せる後に年少何海鳴を指揮者として堅守せる南京軍よりも怯懦なる大和魂に非ずや。諸公。革命されざる今の支那を以て革命されたる將來の支那を斷ずるはルキの佛人を以て奈翁の其れを推し、徳川氏の大坂城を以て乃木將軍の旅順攻撃を考へんとする如き重大なる論理的錯誤なり。革命とは軍隊の腐敗して革命勃發すら防禦し得ざるを以て起るもの。即ち革命の起れること其事が軍隊の價值なきことを立證するものなり。此の論理的錯誤に氣附かざる混迷者を指して是を支那通と云ふ。焉ぞ知らん、ペルリ、ハリス等が虚言

人種なり』と書き残し、『亡國のみ』として立策せる我が日本の軍隊が後年大露西亞を撃破せし事實の如くに、革命の支那は混迷者の妄評を無視して黃禍の濁浪を卷くの甚だ遠からざるを。瑞西の傭兵によりて漸く秩序を維持せし如き軍隊の腐敗より奈翁の用ひ得べき強兵を作りしは何の故ぞ。國民の自由的覺醒による愛國的信念と佛蘭西の絶望的危機がカルノーをして將校を賤民農奴たりし階級より拔擢せしめ、強制徵集を斷行し、弊風情實を打破し、王黨の嫌疑を恐るゝより良家の子弟舉りて自衛的に入隊せし如き軍政の一大革命を爲さしめしを以てなり。支那の同様なる危機と、統一及自由に對する國民的覺醒とは、カルノーの出現を思考し得ざるか。瑞西傭兵を以て見ば當時の佛國軍隊は齒牙に掛くるに足らざる者と映じたるは論なし。同様に、孫黃輩に雇傭さるゝを榮とする傭兵者流は、亦歸りて朝野に報ずるに支那の軍事語るに足らずとしたり。——軍政の根本革命の事、革命家其人を外にして傭兵的浪人等の思議し得べき所ならんや。支那の軍國主義は今の軍隊を保持して單に軍事的教練を加ふるに過ぎざる教官顧問の招致によりて得べき者に非ず。即ちカルノーの問題な

り。否、國民の軍事的的精神其者を一變すべき信念と制度に對する根本的革命なり。諸公。貴族と武士に國防の權義を世襲的職業とせしめたる事が佛蘭西と日本の墮落時代なりき。然らば其等に砲術を傳授して教練することは問題にあらずして、其等の一掃を先決的急務とせざるべからず。袁治下の支那は同じく世襲的營業とせる八旗兵は除かれたりと雖も、代官政治の精神によりて今の軍隊は最も廉價なる惡種の浮浪漢を購買して組織せる者なり。——諸公。支那の凡ては打破則ち建設にして彌縫を考ふる餘地を存せず。盜賊となる代はりに軍隊に備はるゝ者、匪徒の團集が協商して代官の用に買収せられたる者に、堂々たる帝國軍人と稱する者何の面皮を以て徒勞なる教官を勤むるや。彼等は佛蘭西と日本の爲せし如く悉く解散せしむるか屠殺すべき者にして、五國借款を以て養ふが如きは言語に絶する沙汰なり。日本は帶刀を奪ひて解散せしめ、聽かざる者は西南役に於て屠りたり。佛蘭西は始めより斷頭臺を用ひ其多くは逃亡したり。支那の軍隊處分策亦國民軍と百姓兵を以てすべし。今の彼等を養はゞ國を擧げて食ふも足らず。彼等が討伐を要するほどの流賊數省を

連ねたる叛徒となる事は國民軍の實戰的訓練の爲めに却て望ましきことに非ずや。奈翁曰く、余は泥土の中より將軍を作れりと。一大陸軍國たる支那の將軍は革命的青年と四億萬民の泥土中より出づべし。自由的覺醒による國家的信念は近代國家の凡てを作らしたるものにして、今の列強の將卒亦實に此の覺醒されたる信念の產物なり。眞理は獨り支那に不公平なるべからず。自由の覺醒を得ると殆ど同時に佛蘭西の農奴は全歐洲を蹂躪したり。明治五年に常備軍三萬〇六百八十人を有せし日本は、土百姓に國家的信念の普及すると共に露西亞を擊破したり。四億萬民の國家的信念を自由政治によりて覺醒せんとしつゝある中華民國は亦必然に一大陸軍國として黃禍の恐怖たるべし。——是を樂天的空想なりと云はゞ維新革命は悉く虚偽ならずや。山縣公等の歴史的價値は東洋のカルノーとしてなり。全國の武士階級が指笑する百姓兵を指揮して偉大なる西郷に指揮されたる亡國的軍隊を打破し、以て國民自身の自由的覺醒による國家的信念を全國皆兵の現時に擴張せしめたることに存す。従て大西郷の征韓論を後年の理想に抑止したる天意は、亡國階級を率ゐては外戦し得

べからずと云ふことに在り。國家的信念を得たる後の國民軍が日清戦争に打ち勝ちしとは根本を異にす。近代革命がカルノーを生み山縣公を生みしならば、國民的信念の覺醒によりて起れる支那の革命が、四億萬民皆兵制度を樹立して蒙古共和國を近代史に現出せしめざる理なし。山縣公は『泥土の中より作られたる將軍』の一なり。日清戦争に戦へる者、日露戦争に戦へる者、悉く中世的軍隊より出でたる者に非ずして、士百姓及び其に近き階級に生れたる將軍なること尙奈翁の諸將の然るが如し。第一革命に現はれたる人々が已に悉く支那通等の意表に出でたる泥土中の將軍なりしを見よ。何ぞ現下の革命に於て窩瀾臺汗と其諸汗とが『地下層より揺り上げらるる』を推想し得ざるや。

諸公。革命の支那が武斷政策によりて國內を統一し軍國主義に立ちて外邦に當るべしとの以上の推定は、即ち支那と英露との衝突避くべからざるを斷決せしむるものなりとす。支那が財政的獨立を得ることは、直ちに埃及の如く其れを侵しつゝある英國の驅逐を意味す。已に海關税を奪ひ將に鹽税を奪はんとする彼は支那の財政革命と同時に若くは前提として先づ第一に革命政府の

許容する能はざる侵略者なり。埃及が英國の主權の下に於て財政の獨立を得べしと云ふ愚論無し。支那の革命政府は中世的代官階級の維持に腐心し其維持によりてのみ自己の利權を保持せんとする英國の驅逐を先決問題の一とせざるべからず。天意の測るべからざること彼と中世的階級との惡因縁は長髮賊の昔時に存す。洪秀全が基督教を奉じたるの可否は秦始皇帝が道教を國教とせんとしたる如く疑問なるは論なし。而も文士教と中世的文士階級に對する根本的革命を掲げて殆ど將に征服を終らんとせし時、英國はゴルドン將軍を派して保守的教義と階級を維持したり。——あゝ英國なかりせば支那は日本の維新革命より五十年を後れざりしなり。現時又袁を後援する昔年の如く、終に五年の歲月を遅延せしめ、日本を煽揚して四億萬民を暗黒時代に封鎖せずんば止まざらんとす。天幸ひに尙支那に憐みを有して安南一帯が英國と抗爭せし佛蘭西の旗下に置かれしが故に可なり。(地圖を展べて佛領安南が英國の支那併呑に對して極南の萬里長城として横はれる天佑を見よ)。侵迫盜掠爲さざるなきジョンブルの併合する所たりしならば、印度よりの一圓揚子江流域の中原

に至る沃野と蒼生とは已に悉く彼の植民史に編入されし者なり。——恐るべき揚子江流域の優越權よ。保全主義を掲げたる日英同盟は斯かる優越權を尊重せざるべからざるものなるか。印度を同盟條項に加へたる意義に於て、日本は支那分割の時揚子江流域を第二印度たらしめんと考ふるか。佛蘭西の領土安南が英領印度と南支那の間に障壁を築きしことは彼が歐洲の霸權を失はざりし昔に於ては支那保全の保證なりき。而も現下の大戦に見る佛蘭西を以てしては、英國の領土的接續を妨ぐる能はざるは明かなり。英國は國交に一點の正義なきを却て外交的能力なるかの如く誇りとす。大战の終局と支那の革命によりて破らるゝ列國の新なるバランスに處するに當つて、翻然佛蘭西と日本を賣りて印度より安南緬甸に通じ、揚子江流域に達すべき南亞細亞の大經營を策するなきを保するか。ピーター大帝の露西亞が北亞細亞の侵略を國策とする如く、英國植民史の精神を一貫する南亞細亞の經營は勢の及ぶところ支那の恐怖時代となり、直下急轉日本の亡國史を書かんとする未曾有の危機を感知せざるか。彼れの占據せるシンガポールは佛領印度の咽喉を扼する者、而して實に

香港は支那本部の心臓に刃を擬する一切の策源地なるを見よ。英國が植民史の精神を棄つる能はざるは尙露西亞がピーターの遺勅に背く能はざるが如し。彼は佛領印度と揚子江流域とを印度に接續したる英領南亞細亞に彩色するを得ば、如何なる敵國とも握手せんは尋常茶飯事のみ。英國にシンガポールと香港とに據れる經路を放棄せんことを望むは、尙露西亞に西比利亞鐵道の割讓を求むる如き不可能事にして、——即ち國家の存亡を賭して争はざれば能はざる事にして、獨帝の發作的外交より青島に來れる其れの比にあらず。換言すれば、支那と英國とは一が印度となるか、他が日没無き誇を失ふかの決勝的對立に面する者なり。あゝ諸公。一九一一年の革命が利權回收論の爆發なる所以は、經濟的打算にあらずして、支那が英國の印度たる能はずといふ天意を宣布せる民の憤なり。英國亦事々に此等を傷けて妨礙至らざるなき所以の者、實に南亞細亞經營の爲めに袁世凱と及び其の階級の存續を必要とする國是に基くものなり。存亡と國是の衝突は干戈にあらずんば決せず。彼の日支交渉に處せし英國の態度を見よ。彼は滿蒙に日本の來ることを以て保全主義に牴觸せずとし

たり。何となれば是を以て彼は或る場合に於ける自家の揚子江流域を併合すべき自家の保全なりと考へたるを以てなり。而も自家の併合區域内の者及び支那の覺醒を來して支那が自ら保全し得るの將來を來すべき開發的條項に至つては斷々乎として兩國に干涉したり。是れ何の保全主義ぞ。露西亞の北亞細亞侵略は前門の虎にして、英國の南亞細亞經營は後門の狼なり。前門の虎を退けんとして後門の狼を進めたる日英同盟は、支那が中世的暗黒なりし間、日本の採るべき唯一の以夷制夷策なりき。支那は曙ならんとす。彼は掠奪沒收徵發によりて財政精神より革命すべきが故に、英國の埃及的權利を打破すべし。不換紙幣の天下たるべきが故に英國資本の利拂ひを拒絶すべし。主權は絶對なりの原則に従ひて必要の場合彼れの資本其者を收得すべし。提契すべき國の債權には金銀の山を送ると共に、英國の投資に對しては砲彈を支拂ふべし。諸公。現下紛々たる日英同盟可否の空論は窩潤臺汗と其諸汗との斷行によりて討論終決となるべし。あゝ我が日の本に神々の加護あれ。國策如何に屬僚政治によりて誤らるゝも、義に死するの建國精神を失ふ者に非ず。千百の岡田滿

は出づべし。『日英同盟の誼』によりて英國の印度兵に雇はるゝか、立國の正義と永遠の利益の爲に第二の日露戦争を英國に向つて戦ふべきかは日比谷原頭に擧がる神の聲によりて決すべし。南支那海の防備が日本の國防的必要の爲に福建省の不割讓を要求して、何人にも割讓すべからずとする保全主義と矛盾するよりも、——些の軍事的價值なき青島を奪ひて來るべき恐怖を沿岸不割讓宣言によりて隱蔽するの兒戲に出づるよりも、——最も完備せる軍港、雷に英人のみならず、白人凡てが東洋經略の足溜となす軍港は手を額にして東郷二世の占領を待てるに非ずや。香港是なり。天已に香港太守を狂亂せしめて日章旗に發砲せしめ、以て其の必ず奪ふべきを指示せしことを見よ。あゝ山座公使。公が生前獨逸と結んで英國の亞細亞經略を覆へさんとせし大策は、朝野の無智無恥の爲に英の傭兵に甘んじて却て日獨戦争となりて現はれたり。彼等は日本の對英露策に取りて獨逸が支那保全主義の爲に唯一同盟國たるべきことを思考だもせず。依然たるグレーの翻譯局、臣事隸從至らざるなき殆んど印度兵の如くにして而も唾辱蹴弄却て斯くの如し。大秘密の死に蔽はれたる公及水

野參事官の綿々たる恨は高祖高宗の知るあり。英國本位の外交は公等を大の如く葬れりと雖も、義に死するの國民は革命的對外策の犠牲者なりしことを痛哭感謝するの日を見ずして止まんや。空しく公等の屍と共に土に歸せしかの如く見えし日英開戦の大策は、今や將に支那革命の展開に伴へる必然の運命となれり。三年の長き、日本は公等の恨を知らずして却つて英國に隸從し、公等世に存せば天與の好機とすべき歐洲大戰に會して倒主に獨逸を敵とす。戦局遅滞英獨或は和を結んで香港に據らば國運累々たること恰ど元寇襲來の昔時に似たり。完備せる香港あり。沿岸不割讓宣言は何の價ぞ。敵とすべからざるものに戦を挑める天の責罰は愈々益々英に頼らざるを得ざらしめ、同盟の鐵鎖は日本の行歩を繋ぎて踰躑奴隸の行くが如し。退て英に従ふ能はず進んで獨に結ぶの面皮なく、其の繋がれたる鎖を斷つの自由をすら失へりとは是れを何とか言はん。上下呆顔喪心して一の相模太郎を見ざる時、不肖等は終に公等の遺志を支那の動亂に望まざるを得ず。あゝ天、諸公が殉國の丹心を憐んで現下隣邦の革命を捲き、以て日本を存亡の窮谷より救はんとして然るか。莊嚴なる

犠牲よ。鴛才不肖のごとくにして尙公等の恨を三世諸佛に祈りて止まず。支那の革命何ぞ獨り支那をのみ救ふものならんや。

更に窩潤臺汗共和國の對露一戦に就きて語らしめよ。

十八 露支戦争と日本の領土擴張

英國と日本とはスエズ以東の覇權に於て兩立せずト支那と露西亞とは兩國歴史ありて以來の相互的恐怖なり——第一革命終局と同時に擧がれる對露一戰の聲に與國的風潮を察せよ——日露協約を以て支那に臨むの謂ひに非ず——國際間に於ける親善又は同盟とは存立の必要の一致を云ふ——同文同種相争ふ歐洲各國を見て何ぞ日支の同文同種を云ふや——支那の排日は日英同盟と日露協約の日本を排するのみ——アンウエルスの佛蘭西分割會議——蒙古一角の喪失は全支那の割亡を結果す——滿蒙回藏を放棄して十八省の統一を策せよと云ふは尙琉球をベルリに北海道を露西亞に割きて維新後の統一を爲すべしと云ふと一般なり——日本は日支親善を云ふの面

皮なし——支那は分割すべき列強の相殺戮しつゝある大戰によりて日本と等しき天佑を受けんとす——革命佛蘭西が天佑に救はれしと同じき支那の天佑——英露に苦しめる支那が英露と戦へる獨逸に對して親獨主義なるは論なし——日本自身が英露分割より免かれしは明治四年に勃興せる獨逸が英露に後顧の憂たりしことにあり、——大隈首相に山座氏の志を成さんことを切望す——太平洋の英國は大西洋の英國の遺産相續人たるべし——日本が支那を喰はずして支那の敵を喰ふに至りて日支の同盟を云ふべし——維新革命中の日本が歐米の紛争の爲めに亡國を免かれし事實の列擧——露西亞が三國干涉の外交的全盛時代に於て朝鮮に進出せば日露大戰の敗なし——北露南英に奪ふは只今の時を然りとす——宗社黨を利用せんとする武辯政客の誤謬——今の露西亞は支那新興の一撃にて足る、

實に支那の英國を驅逐すべきことは、唯日本と英國との覇權争奪に於て日本

を覺醒せしめ後援すれば足れり。英國がスエズ以東に威權を振ふことが東洋の英國を自負する日本と兩立すべからざる覇權の衝突なることは明白なり。支那は唯天地を貫く之の至誠と鬼神も避くべき斷行とを以て、日本を日英同盟の奔より救ひ出せば足れり。日本が其錯誤せる外交より覺醒して『將來の孤立』に戰慄せば、即ち同一なる外交的失策の爲に『現在の孤立』に苦惱せる獨逸との同盟に至るべきは自然の數。日獨の海軍は大西洋と太平洋に彼の海軍を分割せしめ、本國の降伏は獨逸によりて、本國其者に値する印度の獨立は日本によりて實現せらるべし。斯くして異人種迫害の罪惡史は英帝國の分割によりて終末を告ぐべきにあらずや。則ち南亞細亞より英國を驅逐せんとする日英戰爭は支那の如何に關せず、今の『小日本』が『大日本』として覇權を確立すべき領土を英國の持てる者に奪はずんば行く所なきを以てなり。中華民國の對露一戰に至りては然らず。支那の分割か保全かを端的に決定する者一に唯窩瀾臺汗と其の諸汗とが露西亞を擊破し得るや否やに存す。實に支那と露西亞とは兩國歴史ありて以來の敵國にして、露が支那に加へずんば支那が露に加ふべき運

命に立てり。支那の盛時とは凡て露を制したる時にして、清朝の盛衰亦實に露西亞との勝敗によりて定まれる眼前の事例の如し。彼のクロバトキン將軍が絶叫して黃禍を説き西比利亞の防備を論ずる所以の者、是れを彼の側に立ちて見る、實に蒙古共和國の馬蹄下に在りし三百年間の中世史を回想し、更に清朝の盛時に戒しめ以て彼に加へずんば我加へらるべしとする憂心仲々の聲なりとす。何ぞ輕佻暴慢なる日本浪人の如く支那を輕侮しての侵略主義ならんや。

然らば諸公。同一なる立場に立てる支那が第一革命の終局と同時に、對露一戰の聲に鼎沸せし興國的運命を洞察せよ。不肖は先に第一革命が序幕にて閉ぢたる原因を述べて露西亞の侵略を前驅する蒙古の獨立が重大なる理由なりしことを論じ、袁中心の忍ぶべからざる講和を忍びし革命黨の愛國的行動と大局的理解とを賞讃したり。而して又第二革命に國民の加擔せざりし原因が、日本の顛倒的大誤策の爲に將に露西亞と携へて支那の動亂に乗ぜんとしたる危機に警戒したるに依ることを論じ、三年間の日本の不安が亦實に支那の革命と共に革命さるべき外交方針の分水嶺に立てるが爲めなることを説明したり。

諸公。支那の存立の爲めに避くべからざる必然に屬する對露一戰は、必しも日本が露の走狗たる故を以て止むものに非ず。成敗は別問題なり。日本が露西亞との協約に盲從して今の支那を討つならば是れ露支戰爭に非ず日清戰爭による支那の再敗と云ひ得べし。建設の基礎だに成らざる彼は唯恐怖時代を演ずるに過ぎざるは論なし。是れ三萬〇六百八十人の常備軍を有せし明治五年の日本に向つて(例へば大西郷の征韓論に基きて)當時猶勝海舟等の畏敬せし如き強大なりし清國を破らんことを要め、四萬二千人以上の常備軍を養ふ能はざる降伏條約に従ひし獨逸に向つてモルトケ將軍の巴里入城を望む如し。不肖はかの愚呆と驕慢に學びて壯丁の長兄が三歳の幼弟に力を誇る如き日支國力の對較をなして喜ぶものに非ず。不肖は日露提携せる壓迫が支那に破らるべしと言はざることは、支那が恐怖時代を演ずべしとなす前述の説明に明かなり。不肖は英國の南亞細亞經營と、露西亞の北亞細亞侵略とが、恐怖時代の支那と共に財政破産の日本を一括割亡すべしとは言へり。——不肖の茲に論ずる露支戰爭とは日本が日露戰爭の正義に復活して支那自らの支那保全に同情し後援し、

且つ日本自身が朝鮮と日本海の防備の爲めにバイカル以東黒龍沿海の諸州を領有すべき運命に覺醒せる基礎に立ちて言ふものなり。國際間に存する親善又は同盟とは斯る存立的必要の一致を意味する者にして、何ぞ同文と同種とに係はりあらんや。同文なるが故に親善なるべくんば英米の間は日支の文脈語義相通ぜざるの比にあらず。而も獨立戰爭あり亞で英米戰爭あり、仲裁條約は成らずして今日獨米の却て親和なるは何ぞ。同種なるが故に同盟し得べくんば、波蘭人は露獨に別れて戰はず、伊太利は佛蘭西に抗する三國同盟に加入せざりしなるべく、皇帝の叔甥的血族の英獨相屠りつゝあるは何ぞ。支那が同文同種の誼に背きて排日を叫んで止まざる所以は、民族的性格にあらず。國家の存立上日英同盟の日本を排し日露協約の日本を排するもの。斷じて自己等の盟主としての日本を排する所以にあらず。即ち支那民族の道德的墮落にあらずして、むしろ國家に對する道德的覺醒なり。政策的に言へば支那政府の誤策にあらずして、日本政府が兩國親善なるべくんば所以の道を理解せざる外交方針の根本的顛倒事に因す。諸公。獨塊に導かれたる英國が佛蘭西の分割をアンウエ

ルス會議に議決したる時、革命佛蘭西が英國との唇齒輔車を提唱せざりしはラテン民族の不徳と革命政府の誤策に歸すべき者か。蒙古其者は支那の大を以てすれば數ふるに足らざる如し。而も蒙古に露西亞の北的侵略を導くことは直ちに西藏に英國の南的經營を迎へ、佛の雲南貴州を求むるあれば英は更に揚子江流域を呑まんとし、露獨亦協定して山西陝西の森と山東の海より呼應し、對岸の島國は狼狽して亦ツーロンに上陸すべし。蒙古一角の喪失は則ち全支那の割亡を結果す。即ち蒙古西藏は淺薄なる支那學者等の考ふる如き中世史の外藩にあらずして、英露の經略に對抗して支那の存立を決する有機的一部分なり。彼の五族統一は不可能なりとして一國の國旗を侮辱し、須らく滿蒙回藏を放棄して十八省本部の治を圖るべしと云ふが如き一顧の値なき愚論が日本の朝野に敬重せらるゝ如くにして如何ぞ日支の親善を望むべけんや。是れ四肢を切斷して口腹の生存を續けよと云ふもの。唇亡びて齒寒しの論法に従へば四肢なきの肉塊は烏雀の啄ばむ所とならんのみ。維新革命の時ペルリの門戶開放に従ひて琉球と小笠原島とを讓渡し、露國軍艦の對島に租借せしを追逐する以

夷制夷策なかりしとせよ。英は九州を掩有すべく、露は従ひて北海道に占據し、米佛亦各々欲する所を要めて日本の所在何處に在るかを見るべからず。今の支那學者支那浪人等は日本の本州のみにて可、維新革命者等の痛心外交笑ふべしと云ふか。列強對時に至らざる中世史に於て蒙古西藏等が多く必要なき外藩なりしことは事實なり。是れ猶ほ維新前に於て琉球が日清兩國に事へ、北海道が蝦夷の地として重視されざりしが如し。彼等は林子平の國禁を犯せる國防的絶叫を先覺者なりとして賞す。然らば、何が故に求むべき名利を顧みずして革命先覺の吳崑君が『蒙藏旅行團』を率ゐて不毛に入らんとせし企圖を讚美せざるや。支那の革命を機として蒙藏を窺ふ英露は、尙佛蘭西の動亂に乗じて分割を同盟せる塊普の如し。而して日本亦當年の英國を學びて、日英同盟と日露協約を遵守し、終に故桂公を露都に派して『アンウェルスの分割會議』に列せしむ。何の面皮か能く日支親善を言ふや。

諸公。不肖は支那の革命が佛蘭西に似たる困難に面することを見ると共に、又日本の如き天佑を蒙らんとするを考へざる能はず。普魯西と塊太利と露西

亞とは波蘭土を分割したる革命動亂中の甘味を二十年後の佛蘭西に推及して直ちに兵を進めたり。是れ恰も英露が默契せるものゝ如く北と南とより支那に殺到しつゝあるに比すべし。彼等は東洋民族を経略し來れる甘味に酔へるものなればなり。而して塙普同盟軍が巴里の四十哩に迫り乍ら突如退却せし理由は佛蘭西國民の愛國的死闘よりも二國の背後に在る露西亞の反覆に警戒したるが爲なり。相似たる形は露西亞を嘗て三國干涉によりて支那分割に煽動し英國に媚びて露佛同盟に當りつゝありし獨逸が今日意外にも英露と相闘ひ以て背後より革命の支那を保全すること恰も佛蘭西革命に於ける露の如くなれることなりとす。——當時の佛蘭西が露西亞に救はれし理由によりて支那の親獨主義を山座公使の靈に感謝せよ。名譽なる孤立にせよ不名譽なる孤立にせよ今の國際政局に於て孤立を許さざる事情は支那をして英露を牽制するに獨逸と結び日本を制扼するに米國と握手せしめたり。聰明なる以夷制夷策よ。是れ山座公使の進退を賭して本國に訴へんとせし一大外交政策に非ずや。愚呆と驕慢とは山座公使の堂々雄大なる大局的眼光を理解するの明なく

一に支那を侮弄して夷を以て夷を制するは春秋戰國の弊を繼ぐ者なりとす。個人と國家とは其生存の爲に境遇に適應する形を取ることとはダーウキンに學べり。然らば支那の春秋時代に於て原則たりし外交策が日本戰國の賢君名將によりて悉く夷を以て夷を制するの戰略となり更に全地球の春秋戰國に於て露を討つに英を引き更に英を破るに獨を迎ふるの策に出でんとせし山座氏は支那人と等しく輕侮さるべき器なりしか。存亡の危機より發する本能的叫聲は多く誤なきものなり。支那が英露の亞細亞經略の爲めに將に亡びんとして救ひを獨米に求めたるは一種の本能的生存慾より出でたるもの。日本は何が故に獨米に結んで侵略者を挫くの任侠的國風を發揮せざりしか。英國が塙普同盟に加はりしは英佛の歴史的宿怨に原因す。日本が英露に對して往年支那たらんとし、一步或は再び支那たらんとする日支の存立的一致とは全く異なるものなり。日本は明治四年に勃興せる獨逸によりて英露の分割より救はれし回顧を同一なる今の支那に推想する能はざる程に墮落せしか。あゝ支那の不徳なる誤策なりとのみ自任して將に宗祖の國家を九仞に投ぜんとしつゝある

己の根本的顛倒事を省みるものなく、莊嚴なる犠牲者をして三年の長き墓標のほとりを迷はしむる者は抑々誰ぞ。——其身維新革命の生ける歴史として、其位將に支那革命を支配し得べき空前の雄大なる舞臺に立てる大隈老伯よ、第二革命が英國の全勝と日本の全敗とを以て消失するや、公は『日本の知識と英國の資本を以て日英經濟同盟とすべし』と聲言せり。英人の舉措に怒骨髓に徹する不肖は彼等の冷酷なる嘲笑を想ふよりも日本外交の悲慘時代なりとして慟哭したり。加藤前外相の價値は如何に日英兩國の兩立し得べからざるものなるかを日支交渉によりて立證せんが爲に世に出でたる阿部局長と等しき我が神の方便なり。陸軍と海軍と國民と、悉く前代未聞の不安を公の統治に抱きて而も公に非ずんば此難局に當る能はずとする絶對の信頼を掛くるの矛盾は、是れ何の意味なるかを知るや。不安は革命期の不安なり。信頼は革命者たりしが故の信頼なり。即ち公の内閣の前期に於て行き詰れる英露同伴の外交策が、將に後期に入りて獨米提携の其れに轉化せんとする國策動搖の不安と信頼に非ざるなきか。齡八十の老雄七首爆彈の間を馳驅して國事に勞するは高祖高

宗の嘉稱に堪へざる所。而も伯爵の形骸ありて八太郎の壯心なくんば是れを如何せん。支那の革命に非ず、二千五百年存亡の大事なり。頼山陽をして高歌膽蕩の如しと詠ぜしむるも公。皇天公に冥助せし加護を變じて岡田滿を用ふるも亦公。斷じて斗屑の吏僚輩を集めたる對支會議を開きて決し得べき外交の危機に非ず。萬籟靜なるの一夜、希くは山座公使の墓前に座して冥目教を受けよ。——痛憤胸を衝きて起るものあるべし。外交革命の轉機とは即ち其れなり。不肖乏しと雖も公の導きを爲さん、噫。

諸公。斯くの如き佛蘭西と相似たる分割の危機に臨める支那は、今日將に佛蘭西の露に於ける如く、歐洲に於ける獨逸と英露との爭霸關係によりて救はれたり。而して更に維新革命に於ける日本と同じき天佑は現下の歐洲大戰を機として日本の外交革命と共に降下せんとす。固より日本が英露の爲めに支那を討せば正に佛蘭西と異なるなき危機なるは論なし。窩瀾臺汗の共和軍が英人を驅逐し蒙古討伐を名として對露一戰を斷行するの時、日本は北の方浦港より黒龍沿海の諸州に進出し、南の方香港を掠し、シンガポールを奪ひ、——あゝ佛領

印度を領して印度救済の立脚地を築き、——更に長鞭一揮赤道を跨ぎて黄金の大陸濠洲を占め以て英國の東洋經略を覆へすべきは論なし。太平洋の英國は大西洋の其を相續せざる可らず。支那は先づ存立せんが爲に、日本は小日本より大日本に轉ぜんが爲に、古今兩國一致の安危を感ずる斯くの如き者あらんや。是を日本の利益より云へば、支那は膨脹的日本の前驅を爲す者なり。支那の利益より云へば貧弱なる己を喰はずして豊富なる己の敵を喰ひ双腕己を抱きて保全を圖る者なり。——斯くの如くにして日支の同盟を云ふべく、兩國の親善は將に天人狂舞すべきのみ。是れ維新革命と同じき天佑に際會せる者にあらずや。實に日本の維新も亦歐洲の戰亂によりて獨立を得たる革命運動なりき。對島の租借權を主張して動かざりし露艦、長崎に入りて威嚇至らざるなかりし露艦が、上海に入るやクリミヤ戰爭の爆發によりて英佛艦隊と抗敵せざるを得ざりし天佑ありき。是れ五國借款の分割同盟が現下の大戰によりて自ら解體せし天佑と何ぞ相似たるや。ペルリの公文に残存せる如く、米國の日本侵略が突如として交迭せる反對黨の政策によりて平和主義に豹變せし天佑ありき。

是、蒙古の煽動的反亂を機として直に進出せんとし西比利亞の駐屯軍が、露本國の危急の爲に一空召還せられし天佑と何ぞ相似たるや。是を思ふに、日本の獨立は明治大皇帝が常に自己の功に居らずして言々必ず天佑に保全せられたる感謝を彼の神々に捧ぐるを忘れざりし如く、全く歐米の動亂によりて分割を免れたる天佑の日本保全なり。見よ、今の袁世凱の支那を見る如き中世階級の腐爛頽廢せる時代は、歐洲は革命動亂に燃えつゝありし時なり。佛蘭西の第三革命は一八四八年にして全歐洲は地震の如く崩壊したり。クリミヤ戰後の新均勢の爲に列強は同盟協商に没頭して他を觀る暇なく、五八年より五九年に互りて伊太利獨立に係はる佛墮の戰爭あり。更に普國勃興のバランス破壊と、六四年の丁抹戰爭に亞ぎて六六年の墮普戰爭あり。最も日本に危険なりしルキ、ナポレオンは維新後に至りて普佛戰爭に亡びたり。而して東の方或はペルリに見る如き恐れありし米國は墨西古の保護權問題によりて佛蘭西と兵火將に見えんとし、六一年より六五年に互りし南北戰爭と亂後の財政的破壊は日本に加ふる餘暇を興へざりき。——是れ日本が佛蘭西革命の如き恐怖時代を見ざりし

原因の一切なりとす。然らば則ち現下の歐洲大戰は日本に亞ぎて四億萬民を救濟せんが爲の天の冥佑にして、嘗て天佑に保全せられたる日本は支那革命に處するに於て天意に背くことある可らず。國際的事實として、一國が他の内亂に乗じ得べき權利を有するは固よりなり。而も天地の公道を踏むべき日本は天意の保全せんとする所を犯す可らず。將に天の責罰しつゝあるより大なる獲物に向つて一大奮躍を敢行すべき天與の幸福を把握すべし。天の賜を取らざれば天の罰あり。露西亞が三國干涉の外交的全盛時代に於て斷乎朝鮮に進出せしならば後年日本に撃退されし日露大戰の悔なかりき。今の時に於て日本亦天意を奉じて北露南英に奪はずんば敗露の侮を再びするも詮なし。國家の興亡實に間一髮。況んやカイゼル四面の楚歌に疲れて或は楚項の運命を追はんとするの時、若し彼を失はゞ歐洲のバランス破壊は奔流の如く英露默契の日支分割に至らずんば止まず。而して對等の講和は英獨の提携に至らしめて亦日支の亡。朝野の諸公何する者ぞ、己を滅ぼすの敵に走りて己を護るべき朋を攻むるの狂亂事を爲すや。夷を以て夷を制するは古今東西、外交の原則。露

西亞の全敗に終らざることが歐洲の均勢たる露佛同盟と東亞の日本駕御策とに必要なが故に英のポーツマスに施せる跡を見よ。山座公使死し水野參事官仆れて駐支獨逸公使との密謀を傳ふる者なかりしにせよ、諸公の至誠愛國を以てして此の一目瞭然たる興亡の岐路を踏み迷へりとは之れを何をか云はん。國家は天に對して義務を有するのみ。獨軍がポーランドに入りし時、浦港の砲臺を占領する能はざる義務は日露協約の條項に明記せられざる所なり。今五月旭日旗に向つて過ち放てりといふ香港太守の砲撃は彼より日英同盟を破棄せんと欲する布告なき開戰の宣言。近海に遊弋せし東郷二世等は何が故に屠腹の決意を以て本國政府の命を待たざる一發を酬いざりしか。脆弱露の如くんば同盟の値なく横暴英に至つては是を懲すの外途なし。一指彈驚倒の輕薄兒、如何にグレイの翻譯を事とするも日本は天と國民との爲めに存在する者なり。あゝ長劍濶歩の八太郎今何處に在る。支那の保全者を以て任ずる日本は今や却て支那の飛躍によりて彼より保全されざるべからざるか。不肖は天佑支那の革命に降下せりといふよりも、斯くの如き日本に對して猶ほ天の冥護去

らざる所以を泣謝恐懼して止まざる者なり。

或は言はん、(十行削除)。而して南滿洲は日本の血を以て露西亞より得たる所。未解決のままに二個の主權を存立せしむることは斷じて兩國親善の所以に非ず。北滿に至つては英の妨ぐるなくんば日露戦争の當時已に獲得すべかりし者。大戦の意義に照して終に露西亞より奪はずんば止まず。——是れ支那の爲めに絶對的保全の城廓を築くものに非ずや。南北滿洲と黒龍沿海の諸州と浦鹽斯德と。斯くの如くにして朝鮮と日本海とは始めて泰山の安きを得べし。而して是れ實に清朝發祥の地。彼の武辨政を談するの士、至誠餘りありて却て策を知らず、宗社黨の如きを擁して蒙古獨立の聲に倣はんとす。蒙古は獨立せる民族の獨立地なるに反して宗社の貴親等は枕する所なきもの。日本は北に一國を建つるの基礎なく又其要なし。此等一圓古代韃靼の領土は明治大皇帝と十萬の靈を祭るべく、亡びたる清朝の跡を享くるものは有賀博士の主權讓渡論に基く中華民國に非ずして日本ならざるべからざるは論なし。日露戦争以來正に十年、天意歴々たり。日本の財政を覆すべき日露再戦を唱へし彼は、今日

爪牙なき熊となれり。是れを倒す支那新興の一撃を以て足る。日露戦争に支那を参加せしめざりしが爲に、彼をして獨り恣に露支戦争を戦はしめよ。日本が支那の領土保全の爲に戦ひし感謝を表せしむべく、彼をして日本の領土擴張の爲に戦はしめよ。あゝ諸公。日支相食みて終に二千五百年の國家を英露に委せんとするか。四億萬民を救済すると共に南北に大日本を築きて黃人の羅馬帝國を後の史家に歎賞せしめんとするか。茫々歴史ありて以來諸公の如き重大なる使命を受けし者を見ず。

十九 日支同盟と日米經濟同盟

國內の革命的諸問題は只對外一戰の機を以て解決し得べし——五族統一旗に表れたる革命的理想は其の二族を割取せんとする英露との衝突を意味す——日本分割に代りて人身御供となる支那——日本存亡の危機は舉國一致を要求して三百諸侯の否定となる——革命佛蘭西の如き對外軍資の必要によりてのみ革命支那は官僚階級より沒收するを得べし——千百のカルノーよりも首都四十哩前の敵騎——中世的軍匪に代れる覺醒的農民の支那護國軍——支那護國軍の弊衣破帽と奈翁の伊太利遠征軍——武器供給による日本の援助——支那に統一の大器なしといふよりも日本に一ビスマークなきを歎息す——今の四面楚歌に至らしめたる日本自身の驕慢を悔ふ——何ぞ日支

交渉を要せん——山座公使の遺策たる日支官民の一大軍器製造會社——蒙古共和軍の歐洲征服を再びするを得ん——革命されたる日本の對支策によりて援助さるゝ支那統一者の幸福——米國の排日熱は日本の對支誤策と對獨誤策に原因す——米國を英國の分家視する俗見を打破して寧ろ獨逸系の米國と考へよ——日本移民を米國の拒絶し得るは尙支那苦力を日本の拒絶し得るが如し——移民拒絶が日米開戰の理由たり得るならば何故に日英開戰を同じき理由に叫ばざるか——米國の支那投資は日本の武力的保證なくしては安全なる能はざる兩國の對支利害の一致——亡國階級の支那に借款亡國論なりし者革命後の支那に於ては借款興國策となるべし——墨銀三百萬弗を送りて馬關砲撃を依頼せる竹本淡路守——吳廷芳唐紹儀等の所謂親米主義とは銅臭主義にして興國精神の借款策に非ず——怖るべき露國の南下を導かんとせる唐袁孫等の白耳義借款に亡國的腐腸を見よ——日本の五國財團加入は自家防衛上臨機の應策として是認さるべ

し——支那を割亡せんとせし六國の協調は歐洲大戰にして破了したり——横溢せる米國の資本を支那に導くべき支那及日本の急務——北滿を得て日露戦争の完全なる解決——支那は英佛白等の鐵道を無償にして沒收すべし——支那は鐵道分割によりて亡ぶとなす支那論者の錯亂せる推論——鐵道統一は分割的原因を根本より一掃す——英佛露と戦ふことによつて得べき日本及び支那の一致的利益——老譚の團匪的做語は支那の愛國革命黨を代辯せる者——鐵道切賣政策をボーリング會社に試みし孫文は政策に於ても新支那を代表せず——鐵道院の獨立會計は財政監督に非ず——六國財團の財政投資を鐵道統一の投資に奪取するを得べかりし孫文の鐵道總辦——英人の結べる袁孫の握手は悉く東亞の大局を破らんとす——佛蘭西革命に示されたる審判の手を陳其美の暗殺によりて革命の支那に見んとす——米國の投資を以てする支那の鐵道網——軍隊輸送本位の敷設——革命期の富民策として鐵道急設は奈翁の運河開鑿の如し——鐵道なき支

那の小國なることは尙露西亞の獨逸より小國なるが如し——支那の統一者は『鐵道』なり——陸海軍將校の増加に苦しむ日本は天極東露領と南洋英領の占有を指示する者——米國は加奈太の領有の爲めに比利賓を讓渡すべし——日米の離間は英國の祕策なるを警告す——天道に反せば日本自身と雖も天の罰を受けん——天西夫一輝をして言はしむるのみ、

是によりて之を觀れば、支那の革命は天佑に於て日本と同じき歐洲戰亂を惠まれたり。而して一面亦日本と異り、革命と同時に對外戦争を敢行せざるべからざる點に於て終に東洋の佛蘭西たる運命を負へるものなり。日本が日清の奥普戦争に至る迄の約三十年間専心國基の培養を努めたるに反して、支那は現下大戰の機を捉へて乾坤一擲存乎亡乎を天意に任じて飛躍せざるべからず。然しながら是れ必ずしも日本より天佑の乏しき謂ひに非ず。天佑は唯天の使命を理解せるものに於てのみ天佑なり。不肖は確信す。支那は對露一戦を以

て山積せる革命的諸案を一舉に解決し得べし。代官階級の一掃も。財政革命も。軍政改革も。郡縣的統一も。尙武的軍國的精神の樹立も。而して日支同盟による兩國共通の大々的兵器製造所も。全歐洲の資本が横溢せる米國の投資に依る五十萬哩鐵道急設の有機的近代國家の實現も。

此の説明は單純に佛蘭西革命を回顧せば足るものなり。佛蘭西革命の理想、自由平等は即ち不自由不平等組織の隣邦と兩立せざる對壘普戰爭を意味せり。是れ支那の五族統一の國旗に現はれたる革命的理想が直ちに其の中の二族を分割して蒙藏に占據せんとする英露との衝突を意味せると等し。維新革命に於ては白人東進の慾望を飽滿ならしめんが爲めに恰も支那が身代はりとなれるかの如く、佛蘭西に安南を與へ洪秀全の亂阿片戰爭等を捲きて白人相互間の戰鬪を生ずる時代まで日本の人身御供を努めたり。故に日本に於ては大西郷の冒險的外戰論が容れられずして、谷干城等の悲哀なる亡國的警告に戒しめたり。龍溪先生の『經國美談』柴四朗氏の『佳人の奇遇』の如きに見る亡國を恐れ亡國を警しむる累々たる長年月を送り、列強亦悉く日本の亡國を確信して唯支

那の美膳を喰ひ終はれる後の殘飯として一に前後の問題なりき。然しながら中世史を一掃する廢藩置縣の近代的統一は假令警戒に終りしと雖も此の存亡に面せざれば不可能なりしに非ずや。蒸氣と電氣とが海濤の封鎖を破りて特に日本分割を現示するなくんば、歴史は或は薩長幕府の聯邦的或は戰國的中世史を循環せしやも知るべからず。存亡の危機は學國一致を要求し、學國一致は三百貴族の否定を意味す。維新革命は唯内亂外寇一時に來れる佛蘭西革命を内外二期に分ちて日清戰爭まで引き延ばせしものに過ぎず。佛蘭西亦壘普の侵入なくんば中世的貴族政を覆没する能はざりしは察すべきなり。彼等はチユレリー宮殿が萬惡の源泉なることを知る。而も皇帝を賣國奴としたる分割同盟軍を見るに至らざれば斧鉞を加ふる能はざりしなり。ルソーが僧侶貴族等の富を奪はずんば國民に自由なしと言はざりしことは章大炎と差なし。而も同盟軍の侵入に抗戦すべき軍費の必要は斷々として沒收政策を行はしめたり。彼は意識せずして國民自由の經濟的根據たり又財政革命の前提的基礎たる者を是れによりて惠まれたり。寺院貴族より奪へる土地の七十億圓。公債

三分の二の没却。年収八百圓以上の者に三億四千萬圓の軍費徴發。中世的致富に非ざる正當なる新富豪より八千八百萬圓の掠奪。支那と同様に革命とは無税なりと信ぜし國民にルキの悪税を窓戸に二倍し車に十倍せし誅求苛斂。更に今の墨其古が靴一足百弗を唱ふる如き不換紙幣の百五十億法。斯る形容辭も見當らざるが如き大英斷が單純なる革命の理想を説き政治財政の改革を論じて國民に承認さるゝ者ならんや。一に唯「國危し」の警鐘亂打によりて行はれたるのみ。然らば支那の代官階級の一掃と財政革命の基礎とが口舌的借款亡國論に望むべからざるは論なし。——不肖は固く信ず、對露一戰の軍費は代官階級の富を沒收徴發することによりて得べく、政治的財政的革命亦對露一戰に依りてのみ始めて望むべしと。四萬々民の存亡を叫んで軍資徴發を代官階級に要めば秩序整然として三十億圓を徴發するに數ヶ月を要せざるべく、蒙古の戰場若し國民軍苦闘に陥らば更に頗る可、一年百億何ぞ難とせん。軍政改革亦然り。ビスマークが一戰して分立的侯國を統一せし原則は、則ち公安委員會が巴里の城門を閉ち獄裏の貴族を屠殺して奈翁の統一的佛蘭西を準備せし原

則。腐敗墮落して國內の革命的暴動をすら鎮壓する能はざりし都督將軍等の代官階級は逃亡して『泥土の將軍』と『地下層の金鑛』とがゴビ沙漠の陣頭に立つべし。千百のカルノーありと雖も首都の四十哩前に敵騎を見ずんば一躍徵兵制度を強行する能はず、國民亦死を決して來り加はる者なし。恰も日本の其れが數百年の制度に對する急變を緩和せんとする條件付にして而も戶籍を偽る徵兵忌避の養子を流行せしめ、血税の文字を誤り血液を絞りにて電柱に塗布すとして所在噴飯すべき竹槍蓆旗を演じたるが如し。佛蘭西と同一なる支那の危機は、日本の如き氣樂なる施行を許さずして、四億萬民其者の休戚を決する護國軍となりて出現すべし。代官に購買せられたる『最惡なる人民』の中世的軍隊は四散して、『國家の爲めの國民』に覺醒せる至純なる農民の組織せる愛國軍を見るべし。即ち高杉晋作等に率ゐられたる馬關砲撃の如き團匪亂を捲ける國民が一躍大山乃木に指揮さるゝ國民軍として戦線に立つべしといふことなり。或は佛蘭西の如く毎月一億萬の不換紙幣を濫發する如きことは今の時無かるべし。而も彼れが如く巡警劍を典して口を糊し將士馬を賣りて饑を凌ぐ

の窮に陥ることなしとせず。革命とは養を投ずることなり。支那は一九一一年に於て已にルビコンを渡れり。戦はずんば亡。戦へば亡中興の險路あり。奈翁は支那に見るが如き年少なる革命將校なりき。伊太利遠征の途に上らんとして其軍に諭して曰く、佛蘭西は諸子に負ふ所大なり。而も國庫空うして諸子に報ずる能はず。諸子の衣は裂け靴は破る。願くは死を共にし又榮を與にするの日を見んと。對露一戦は日本の憲政擁護者流の神輿となりて得意に狂する如き浮華輕佻の孫文輩を見て推論し得べき支那の將來に非ず。窩瀾臺汗と其諸汗とが大風起つて雲飛揚するの時、馬背に立ちて鳴鞭憤叫國家の存亡を訴ふるならば何ぞ國民軍の弊衣破靴を憂へんや。我は則ち飽食暖衣して泡沫の空名に甘んじ徒に萬言を列ねて國民捐を鳴號する如くんば黃興と雖も其任に堪へず。昔者亡國教の文士歌ひて曰く、古來征戰幾人還と。何ぞ然らんや、明治大皇帝の日本と窩瀾臺汗の中華民國とは征戰勝つて還りし者に非ずんば今の時特に統治の任に當る能はず。不幸屍を馬革に包みて終らば護國の鬼。徹底的革命後の大總統は斷じて露支戦争の凱旋將軍ならざるべからず。兵は四

億萬の組織さるべき國民軍あり。資は亡さるべき代官階級の富數十億萬の山積せるあり。而して各省亂離の統一、財政基礎の革命、一大陸軍國の根柱、自らにして成る。大奈翁は神に非ず唯此平凡事を成せるのみ。あゝ爪牙なき熊を屠りて窩瀾臺汗の蒙古大共和國を築くものは誰ぞ。況んや精銳なる兵器を供給すべき日本を背後に有するに於てをや。

以上の論述を點檢さるゝことによりて、諸公は日支兩國が全く獨塊同盟と等しき存亡的一致に立てるとを首肯せらるべし。實に今の日本に必要な人物は近眼輕佻なる俗論を鎮壓すると共に、充實せる興國の正氣を向ふべき所に向はしむる一個のピスマークのみ。彼は塊普戦争によりて一握の土を求めず、戦勝に醉へる軍將の要求を排し、一見支那の如き割亡に終はるべき塊太利との同盟を策するに自殺の決心を以てしたり。——何ぞ日本朝野の對支策と相距る甚しきや。彼は曰く、塊太利の舊屋は或は瓦解すべし。而も獨逸は彼のセメントなり。否瓦解すと雖も獨逸は煉瓦の一片を求むるものに非ずと。清末よりの支那は正しく解體したる籬なき大なる桶なりき。日本が眞に保全主義を唱ふ

るならば北露と南英との領土を奪ひて四百餘州を抱く雄大なる籬を外方方針とすべかりしなり。軍人と國論とが侵略主義を高調するは興國の正氣にして妄りに抑壓すべきものに非ず。要は向ふべき所に放つに在り。ビスマルクは塙に向はしめずして當時強大を極めたる佛に放ち、以て一舉歐洲の覇位を争へり。戰時中なるが故の耐忍に得々として我れは日英同盟の主位なりと誇り露は終に我に抗する能はずとして苟安に送るが如き日本現時の覇位はビスマルクの與みせざる所。恰も儼父不在の留守居を幸ひとして亂舞する頑童の行ひなり。歸來鐵拳の戒は鏡にかけて見るが如し。而して一瓦片をだに求むべからざる塙太利に對して第二革命の個人的加擔者が數人死傷せりとしては則ち艦隊を派して威嚇し、英の妨害によりて日支交渉の頓挫するや鋒を彼れの強大に向けずして却て涕泣合掌の弱者に加へんとす。不肖は日本歴代の内閣を一貫する斯る醜態を見て、『現下支那に統一の大器なし』と歎息する公等よりも寧ろ『日本に一ビスマルクありや』を憂懼せざるを得ず。否、諸公何ぞビスマルクに劣らん。唯彼は國步艱難の時擧手投足已を制して過なきを努め、諸公は強露

を破つて心自ら驕り終に下等人種の煽揚を事とする英の術中に落ちて最も『不名譽なる孤立』に至りしのみ。獨を敵とし延いて米と相警しめ、露と和するが如くにして英と交々含み、對岸の四億萬民亦皆を決して酬いるの時を待つ。四面楚歌の聲とは眞に此事。——希くは諸公の活眼達識能く一轉獨米と結んで英露を撃破し以て抑塞せる國力の向ふ所を南北に分ちて恣に放たしむるなきか。雄略斯くの如くんば古今を空しうする者、何ぞ一ビスマルクの企及すべき所ならんや。日支親善は是に於て實に獨塊刎剄の交となるべし。彼の恥づべき恫喝と譎詐とを闘はしめたる日支交渉案の如き、北滿蒙は日露大戰の正義に返へるとによりて解決すべく、南、漢冶萍の鐵は嘗に日本の軍器獨立に必要なのみならず支那の存亡の爲に支那の進んで共同經營を求むべきは論なし。日本第一の噴飯すべき外交家加藤氏の如く英國に致されて『第五項案』を保留するに及ばず。又或る種の陸軍系政客の如く漢冶萍解決の爲めに周特使を迎へて逆臣の篡奪を日本皇帝の名に於て承認せんとする國民道德の指彈を受くるにも及ばず。——漢冶萍其他の鐵炭を基礎とせる大々的クルツプ會社を組織し、三分

して其一を支那政府に、他の一を日本政府に、餘の一を日支兩國國民の民有とせば兩國軍事同盟の礎石茲に於て動かす。——故山座公使は此點に就きて具體的成案を有したりき。白人の擔保流れを企畫する高利貸政策を學びて僅々數千萬圓を貸付し以て日夜他の侵すなからんことを恐る。對支外交一として兒戲に非ざる者なし。獨米を聯ねたる日支の軍事同盟に依る軍器の共通は支那の側より進んで漢冶萍の解決を求めざるを得ず。何ぞ日支交渉と周特使とを要せん。然るに英露に隨ひてアンエルスAngersの分割會議に列する外交方針の下に其合辨を求む。是れ合辨にあらずして明白なる侵略なり。袁世凱ならば皇帝の金冠と國家獨立の鐵山とを換ふべし。日本に必要な如く支那の軍器製造に必要なる漢冶萍は、日本が英露隨伴の國歩を一轉せざる限り斷じて革命政府の死力堅守する所なるべきは論なし。天意人心日支兩國の同盟を熱望する斯くの如くにして而も沮隔茲に至る所以の者、一に諸公がビスマークBismarckたらざるに存す。あゝ日支兩國を永遠に結合する日支官民の一大軍器製造會社よ。營利は不肖の知る所に非ず。唯軍器の製造は國權の擴張を意味す。不肖は此の壯觀より

史上の回顧を恣にする時、かの西比利亞平原の風雪を蹴立て、中央亞細亞の惠まれたる諸大國を攻め、以て露都を衝き波蘭土を降だし、奧太利匈牙利を屠り、獨逸ヴァールスタツドの戰場に於てハインリツヒ二世と王妃アンナを討ち取りし蒙古共和軍の光景に肉躍骨鳴せざるを得ず。何ぞ疲弊せる我がカイゼルをして再びアンナ禮拜堂の壁畫より黃禍の圖案を畫かしめんや。僅かに亞細亞人之亞細亞の爲めに。

諸公。大奈翁が軍事外交と同時に運河を穿ち國道を開き法典を篇纂せし多忙の如く、支那の窩潤臺汗は日英戰爭に参加し露支戰爭に出陣し、財政革命を爲し軍政改革を圖り郡縣的統一を遂げ、日支同盟の軍器製造會社を組織すべし。而して更に米國の資本を輸入して四百餘州を有機的一體たらしむるピーター大帝の働きを爲さざるべからず。奈翁は革命の破壊的部分がダントン、ロベスピールの死力によりて終結せし後に來れり。支那の大總統に於ては建設とともに破壊を斷行せざるべからざるは明治大皇帝の如くにして、而かも日本のごとき三十年の歲月を許されざるものなり。——唯だ彼れの唯一の幸福は革命さ

れたる外交によりて日本の後援の下に斷行を恣にするを得る一事なりとす。即ち孫君の所謂二十五萬哩の鐵道敷設が同盟國日本の保證の下に米國の資本を奔流の如く導くことによりて急設せらるゝ如き最も大なる後援の一なり。諸公。米國の資本を支那に導くべしとの提唱に驚く勿れ。山來米國と日本とは何の宿怨あり、何の利害衝突ありて今日の如く相警むるや。彼れに排日熱あるは恰かも支那に『敢て物言はずして怒る』ところの排日熱あるが如く、日本の支那に對する顛倒的誤策より生ぜし反響に過ぎざるにあらずや。又支那に於て日本に一の敵意なき獨逸を日本の攻撃したることによりて、米國に在る獨逸系統の愛國的憤怒に過ぎざるに非ずや。米國に歸化せる獨逸人シーフは日露戰爭の時——露獨抗爭の國家的道念をも加へて——専ら日本の外債を擔任し自ら日米會長たりし程の親日主義者なりき。而も日本の青島攻撃と同時に一切を辭して最も熾烈なる排日論者となりし一例に鑑みよ。俗見の多くは今の米國を以て英人の分家なるかの如き了解の上に外交の論議を苟くもす。是れ日英同盟すれば米國從て同情するかの如き眩想を生ずる所以なり。而も今の

米國は全歐洲の米國にして或る一國の其れに非ざるは何人も知る所に非ずや。否、建國の最初より歐洲各國民の各洲に殖民せし者。一たび英國の優越權下に落ちしと雖も、忽ち歐洲各國の合力によりて英國を排除したる歴史が明示するにあらずや。而して特に今日に於ては歐洲に最も優越なる獨逸人が同時に米國の財界政界の主力を把握して寧ろ獨逸系の支配に屬する米國なるに非ずや。則ち今の米國に於ける排日熱は尙支那の其れの如きものにして、日獨の提携と同時に實力の後援を得べき頼母しき親日論に一變すべきものなり。何者の計ぞ日米戰爭の如き惡魔の聲を擧げて日本の朝野を混迷せしめ、支那に事あれば先づ米に備ふるの用意を艦隊司令官に命ずる如き狂的政策に奔らしむるや。或は日本移民の拒絶を理由とする者あらん。一國が有害なる移民を拒絶し得べきことは日本が支那の苦力を拒絶し英國殖民地の濠洲が絶對に日本人の入國を拒絶しつゝあるが如し。自國に敵意ある日本人を排斥する米國は國家の自衛的權利を行使せるもの。日本が其の包藏する敵意を放棄するか又は英領を奪ひて自國の黄金郷に走るかによりて決する單純なる問題なり。移民拒絶

が日米開戦の理由たり得るならば日本は已に早く日英戦争を實行したるべき論理ならずや。——際限なき英國の奴隷よ。是英國が日本をして己れの拘束より離れざらしめんが爲めに却て巧みに煽動するところのものに非ざるなきか。諸公。米國は玖馬墨其古に對しては債權の設定より侵略に出でたりと雖も、支那の投資に對して兵力を用ゆることは長鞭馬腹に及ばざるものなり。從て彼の對支政策が列強の分割によりて支那の閉鎖さるゝことを恐れて完き意義の領土保全主義——開放されたる市場としての支那を主張しつゝあることは彼として是以外の途なきを以てなり。是れ彼れが露西亞の併呑策に對して保全主義を提げて起てる十年前の日本に強大の後援を吝まざりし所以。從て露支戦争及び日本の西比利亞侵略に對して再び有力なる同盟的立場に立ち得べき所以なり。彼の弱點は支那の投資に於て日本の保證なくんば元利一切の不安なることにして、日本の弱點は彼の投資によりて支那の開發さるゝなくば日本の富強なる能はざる利害の一致に存す。——隈伯何ぞ支那に於ける日米經濟同盟』を提唱せざる。米國が支那に投資すること、一億より十億に進み百億に達せ

ば、日本の市場が數十倍の貿易表を示すときなるとともに米國は愈々其の投資の保證を日本の實力ある保全主義に繋がざることを得ず。別言すれば、日米經濟同盟とは米國をして日本に叛く能はざらしむべく、米國より保證金を日本の兵力下に供托せしむることなりとす。佛蘭西の資本に於ける露西亞の陸軍と云ふ關係が露佛同盟なり。即ち米の對支投資は支那保全主義に對して日米間を不可分的同盟たらしむるものなり。米國が若し第二の英國を學びて支那の經濟的併呑を策することあらば、日本は支那と共に其の兵力を以て供托せる保證金を沒取すれば足る。戦費賠償金の前渡しを以てするならば不肖等何ぞ日米開戦說に與みせざらんや。五國借款の執達吏と黃白兩大陸國の支配と、一に唯外交革命の一轉機によりて分る。清末と袁世凱との時代に於て借款亡國論たりしものは窩濶臺汗の共和國に至て借款興國策に一變すべし。是れ鎖港攘夷論が徳川氏の亡國組織に於て皇帝及び革命的青年によりて唱へられしに係らず、革命政府成立と同時に開國進取の宣言に一變せしと同様なり。閉鎖の論は末なり。墨銀三百萬弗を贈りて馬關攻撃を依頼せる竹本淡路守の心を以て

する開港と聯合艦隊に敗られて對等の休戦を頑守せし高杉晋作の心を以てするの其れとは興亡の精神を異にす。然らば同一なる外國借款が中世的代官階級の時代に行はるゝ時亡國論となり、團匪的正大氣に充實せる革命政府の利權回收論的精神に施さるゝ時興國策の一となるに何の疑ひなし。故に曰く、借款は唯日獨米を聯ねたる英露擊攘の大策に立ちて親ら馬を蒙古西藏に驅るの英雄に非ずんば爲す能はずと。誤解する勿れ、故に是れ所謂親米主義に非ず。吳廷芳の如く日本は貧國なり米は富家翁なりとして銅臭紛々たる代官根性を以て行ふべき政策に非ず。彼徒凡ては米國の投資が日本の保證の下に非ずんば支那に入る能はざる經濟學の原則——資本の安全性——を理解せざる程の亡國的吏僚なればなり。海外投資は此原則によりて武力の後援を要す。彼の唐紹儀と袁世凱孫逸仙とが共に計りて南北講和後の急需に白耳義シンジケートを借れる如き無智淺見の凡俗をして當らしむべき者にあらず。彼等は其外形を見て侵略的性質を帯びざる小國の資本なりと誤解し、現下の大戦に暴露されたる如き露佛同盟の羊皮せる者なるを察せずして愕くべき露國の鐵道を導か

んとしたり。不肖をして日本の五國借款加入を辯護せしめよ。其の當時嘗て一言の反對だにせざりし孫逸仙が第二革命に臨んで怯懦なる犬の如き五國ボイコットなどの吠聲を擧げしことあり。而も孫と袁世凱と唐紹儀との責任に出づる露國の侵入を導ける白耳義借款は當面に日露の均勢を破り、終に日露再戦の場合に於て日本を不利に陥るゝ者。日本に取ては孫黃の八百ダースよりも露國の其に代れる滿蒙五鐵道が必要なりしなり。則ち日本の五國借款加入は其前渡金を以つて孫唐等の禍根を植ゑんとせし白耳義借款の償還を條件としたるを以てなりとす。同一なる借款にして國を亡ぼし國を興すこと斯くの如く、同一なる親米主義にして團匪的興國魂より迸發せる者と代官的慣習の腐腸より露出せる者と、天淵亦斯くの如し。而して我日本たる者嘗て『皇國の存亡此一舉に在り』し時後援し、更に現下の戦慄すべき存亡に臨んで再び最も有効に後援せんとする米國を敵視すとは狂亂の沙汰と云ふべし。前きに支那を割亡せんとせし六國の協調は歐洲大戰に破れて四國の富は悉く他の一國に横溢せり。溢るゝ者は流れざる可らず。日本依然として米資の支那に入るを防が

ば平和克復の後——資本水準の理法に依りて——再び歐洲に逆流せしめ以て國力の回復を促進し終に白人東侵の勢を倍加して鞭撻するに至らんは必せり。先んずれば人を制す。夷を以て夷を制するの外交的原則は世界春秋の現時特に是れを捨つ可らず。伯や須らく日米經濟同盟を策せん。

諸公。日米經濟同盟による支那の鐵道急設は當然に他の四國英獨露佛の鐵道敷設權及び借款權と兩立せざる者なるは論なし。獨逸は英露を挾撃すべき我が攻守同盟國として其有する津浦鐵道の北段(三九一哩)は輸入せる米資を以て償還し、彼の爲に現下切迫の軍資に供せしむべし。露國の東清鐵道(一〇六七哩)は其の北滿洲と共に日本の南滿鐵道に接續したる昔時に返へりて日本の領有に歸すべし。これ日露戰爭の完全なる解決なり。露西亞は他に未設線の權利を有すと雖も分割乎保全乎を問題とさるべき彼は是れによりて支那に何者をも残さず。英國の有する鐵道は最も大なり。京奉鐵道及支線(六〇六哩)、津浦鐵道南段(二三二哩)、滬寧鐵道(一九三哩)、淞滬(一二哩)、廣九(二三哩)、滬抗浦鐵道(一〇四哩)、合計一千百七十哩の既設鐵道は支那の無償を以て沒收すべき

者なり。諸公。不肖を以て暴論を恣にする者となす勿れ。國家の主權は絶對なり。理由は如何様にも發見し得べし。日本が獨逸に最後通牒を發する時三國干涉の舊怨を引き出せし論法を以てすれば阿片を以て中國を毒せしことより數へて千百を得べし。屠殺さるべき在支英人の埋葬費と云ふも可。歐洲大戰又は日英戰爭に参加せる戰費賠償金の前渡しなりと稱するも可。恣まに國旗を樹て、占領と名け租借と號せし彼等に比すれば戰時行爲として斯くの如きも猶人道的なるに過ぐ。恐くは日獨の印度と本國とに加ふる挾撃によりて英國の歴史は卷末となるべきが故に、支那は單に放棄されたる債權を收得する者となるべし。佛蘭西亦然り。滇越鐵道(二九六哩)。白耳義同じく亦然り。海蘭鐵道(一三六哩)。——あゝ諸公。所謂今の聯合軍側と稱せらるゝ英佛白露の上諸鐵道を沒收することによりて支那が分割の危機より脱することを得とせば、一國の權利に於て獨逸に加擔して戰ふことは罪惡なる無策なりと云ふか。止めよ支那悲觀論者。支那の分割は經濟的分割に在り、經濟的分割は鐵道分割に始まると爲す者、支那地圖の東西南北に彼等の未設線路又は豫定線路を彩ど

りて分割將に茲に至るとなす。——由來支那亡國論者は論理的矛盾を極む。清國の亡國なりしことは論者の言の如く革命によりて亡ぼされたることを以て證明されたり。彼等の論理は此の點まで正當にして且つ已に終結したる者なり。彼等は自己の所論が一九一一年に終決せざるを氣附かず、清國を亡ぼしたる跡に興らんとする他の理想と制度と外交關係とを有する別個將來の國家に演繹せんとするは何ぞ。亡ぶべき材料と事實とに基く「如何にして清國が亡びしや」の既定的解説と、新たに興らんとする風雲の機を古今興亡の機微に考へて「如何に民國が興らんとするか」の可能的努力と、是れ實に錯誤すべからざる全然別個の二者に非ずや。則ち既定的解説は所謂支那通と稱せらるゝ事情の精通者に求むべし。一大革命によりて興らんとする民國の將來に至つては斗屑彼等の容喙すべからざる權域外の別事なり。——是れ一大經世家の思考すべき事項。奈翁の佛蘭西がア・サー・ヤングの旅行記によりては想察されず、明治大皇帝の日本が「虚言人種唯強壓政策あるのみ」とせしバークスによりては推知されざりしが如し。不肖は斷言す。支那の興亡は二十二史と數年の支那旅行

によりて考ふべきものに非ずして、是れを決定する唯一の者は——日本の外交革命と英佛白三國の鐵道沒收に存するのみと。即ち少數なる支那人と及び諸公によりて決せらるゝ方寸の如何なりといふの謂ひなり。歴史ありて以來諸公の如き重大なる使命を負ひし者を見すと云へる不肖の前言を形容辭たらしむる勿れ。諸公。若し革命を斷行せし少數なる支那人なかりせば、清末の鐵道切實政策は前掲既設線に加へて列強利權の分野となり、圖上一面に紅黃紫綠を縱横して經濟的勢力圏より一轉政治的分割に終はりしは論なし。即ち唯彼等の斷行ありしが故に支那亡國論は討論終結したるなり。然らば諸公。公等の外交革命を斷行することによりて、更に彼等をして英佛白三國の既設線路を收得せしむるならば、是れ一切の分割的原因を根本より一掃するものにあらずや。——繰り返へして斷言せしめよ。支那の興亡は千百の無用有害なる支那通、支那學者、支那浪人の放言妄動にあらずして一に諸公の方寸に在りと。日露戰爭の本義茲に於て貫徹すべし。保全主義の公道茲に至て徹底すべし。あゝ雄圖古今を空しうする日支同盟よ。日本が英國より香港を奪ひ、シンガポールを

奪ひ、南洋諸島を奪ひ、濠洲大陸を奪ひ、更に國庫を破産せしめんとする債務を奪ふことに對して、支那に一千百七十哩の鐵道と債務とを奪はしめよ。日本が佛蘭西より嘗て支那の領土たりし安南一帶を奪ふに對して二九六哩の其れと債務とを奪はしめよ。日本が露西亞より東清鐵道の一〇六七哩と北滿洲を奪ひて支那に何者をも與へざるに對して、彼に露佛同盟の前驅をなせる白耳義の一三六哩を奪はしめよ。斯くの如くにして大日本ならざるなく、保全されざる支那無し矣。譚人鳳嘗て不肖に語りて曰く。袁孫の徒國を洋夷に競賣す。鄙人無きの後中國或は亡びん。而も是れ尙可。洋夷數十百億の資を投じて中國民を富強ならしむれば是れ中國を獨立せしむる者。一舉團匪を起して彼等を追はんこと必せり。彼等は鐵道と鑛山を荷ひて逃走する能はずと。諸公。彼の翁が不肖の如き明確なる組織的理論を有するや否やを知らず。然れども故宋君といひ、故茫君といひ、現時不肖の交遊聞知せる人々の殆ど凡てが悉く譚的團匪ならざるなきは、歸納的に不肖をして所謂北袁と南孫とに基きて妄論する者と見解を異にする斯くの如きに至れるのみ。袁孫共に過渡期の贋造貨幣。世

界の眼を欺きて革命の支那を蔽ふと雖も、現下の革命亂によりて所在『地下層』より揺り上げらるゝ無數の譚的團匪は必ずや歐洲大戰の機を捉へて支那自身の根本的保全を策すべく一點の疑なし。鹽稅徵集權を競賣せし袁と、全國鐵道總辦となりて依然たる切賣政策をポトリング會社に試みし孫とによりて今後の支那を思考すべからず。何人が任に當るべき天命を享くるやは奈翁の答辯を反覆するの外なし。又時機到來の如何を洞察して、施策自ら形勢の宜ろしきに應ずべきも論なし。而も日本の動かすべからざる對支根本政策は彼等の分割的基礎を一掃せんとする冒險を援助して保全主義を徹底せしむることなり。一舉鐵道を英に放ち鐵絲を露に驅りて大平洋を庭池としたる大羅馬帝國を基くことなり。何ぞ支那の三國より奪へる『煉瓦の一片』を欲するものならんや。實に支那に横溢せざるを得ざる大資本を抱ける米國が、今日に至るまで一の利權的立脚地を支那に有せざることは、日米經濟同盟の可能をして更に大可能ならしむる者なり。固より兩國の投資は中世的組織の維持に用ひらるべきものにあらざることとは論なし。蒙古的共和國の大總統は對露一戰の期に於て、維

新革命よりも急激に、佛蘭西革命よりも秩序的に此等を一掃し、以て新たな建
設を奮勵すべし。彼れは恐らく「鐵道院」の計畫と會計を獨立せしめん。日本
と米國とは自由に其の投資の安全を注意するを得べく、一切の代官的人物を存
在せしめざるが故に、支那は進んで其の公開を欣ぶべし。是れ財政監督にあら
ず。普通に行はるゝ事業の經營方法なり。行政費の缺陷を補はんとして其の
費途に容喙し、回收の不安なるが爲めに徵稅權の行使に參與せんとする者は財
政監督なり。事業の經營に於て計畫を有効にし會計を公明にすることは、外資
たると内資たるとを問はず國營と民業とを論ぜず一般の通則なり。民國元年、
不肖は六國借款の交渉さるゝ時隣國の諸友に力説して曰く。何ぞ六國の款を
用ひて獨立せる鐵道經營を斷行し、以て各國の經濟的分割圏を抹除して經濟的
保全に一轉せしめざるや。六國を一團とせる鐵道院の會計と計畫の下に列強
の既設鐵道を買收し一切の未設線を取消さば是れ彼等をして自ら保全に努め
しむる者なり。津浦鐵道の南段と北段とに見る如く北支那と南支那とを英獨
に協定せしむることは鐵道による支那分割の亡清的遺策なり。ノツクスの鐵

道中立案は日露の滿洲に企てられたるが故に夢想に終はりしと雖も、彼が先づ
英佛白等の支那本部に在る其れと、今後の敷設さるべき凡てとを列強の投資に
よる中立とせば日露亦悦んで參加すべかりしなり。今は則ち其時に非ずやと。
實に當時孫袁の——言ふべからざる提携——固き私利的握手なくんば、革命黨
は亡國階級の維持に浪費されたる六國借款を鐵道に導きて列強と支那の前途
とを平和の間に解決して保全的基礎を築きしやも知るべからず。固より形勢
の變化に應ぜんとする今の開戦による鐵道沒收が英雄に非ずんば爲す能はざ
る如く、此の「六國資本の鐵道統一に依る經濟的保全策」が袁政府の交通部と孫
文輩の鐵道總辦を以てしては所謂虎を描いて狗に類すべきは明かなり。而し
ながら孫にして寸分の經濟的識見ありしならば袁を倒す上に於ても行政費に
消ゆべくして監督の可否の論争さるゝ者に投資すべきや、收利の明かにして材
料の供給に利し會計の明白なる者に投資すべきやを資本の安全性に訴ふべき
筈なりしなり。六國財團が袁政府を棄て、孫總辦に走るべきは論なく、則ち孫
の恢復にして袁の失脚に非ずや。——今にして顧る、實に英公使ヂョルダンの旨

を受けたる一英醫モリソンの結べる孫袁の握手が東亞の大局を浮ぶべからざる深淵に投ぜんとせしこと殆ど粟膚戰慄に堪へず。而しながら諸公。見えざる偉いなる者は終に正義を顯はし東亞諸邦を救はんとす。此の文字を草しつゝある中に宋を上海に暗殺せる陳其美は實に同じき上海に於て天の暗殺を受けたり。第二革命の因を爲せる宋が敵味方に悼惜されたるに反して、第三革命の妨げを爲せし彼は敵味方に欣ばれつゝ終はれり。而して早く已に籌安會を解散せし袁が終に刑戮に至るべき如く近時中華革命黨を解散したる孫も相前後してギロチンに上らんとす。——あゝエベールの靈が己れを殺せしダントンを同じき獄房に招き、ダントンの靈が亦同じく己れを殺せしロベスピールを同じき獄房に招き、ローラン夫人の爲めに仇を復せし少女コルデーの室が實にローラン夫人の室なりしは佛蘭西革命の審判なりき。同じき我神の審判は今や明かに支那に現はれつゝ始まり。南北に現はれたる亡國的代表者の一掃さるゝ斯くの如くにして、天は四國の資本を米國に横溢せしめ、日本を戰爭圏外に置けり。——天意鏡に掛けて見るが如し。是れ天窩濶臺汗と其諸汗とをして英

佛白より沒收せしむると共に、日米兩國に命じて經濟同盟を固くし四百餘州を鐵道によりて有機的一體たらしめんとするに在り。孫文に於て夢なりし者を倍加して十年正しく五十萬哩。是れ全歐洲より注集せる大資本を以て嘗て西大陸に鐵道網を縦横せし經驗を東大陸に復習せしむるに過ぎず。米國の當らば其容易知るべきのみ。日本は彼と共に經營者の位置を求むべきか將た支那の側に立ちて裏書人たるかは不肖敢て言はず。唯窩濶臺汗の希望の一を充たさしむれば足る。——即ち從來の分割的將來より畫かれたる各國の豫定線を一抔して軍隊輸送を基本とせる設計を取ることなり。實に支那の統一者は袁孫に非ず譚黃に非ずして一に唯鐵道なり。支那の郡縣制度は鐵道によりて統一せられ、支那の『産業革命』は鐵道によりて中世的經濟生活を近代に飛躍せしむべし。鐵道は支那の主權者なり。代官階級の富が露支戰爭に消費さるゝ一面に於て、布設費の半ば以上は四億萬民に落ちて佛蘭西の如き恐怖時代の再演なからしめむ。是れ奈翁が戰爭の禍害を防がんとして國民の勞働的利益の爲に一面運河の開鑿、道路の通達を急ぎし所以。而して又日本が革命亂より蒙る賢

易的災禍を空前の幸福に一轉せしむる焦眉の對應策となるべし。——支那革命期に對する對支貿易の維持策は唯一に是れあるのみ。印度三億萬民の統治は三萬數千人の英人に在りといふ。是れ鐵道を有する三萬人と有せざる三億人との強弱なり。鐵道なき時代の日本は各地に鎮臺を置きて内地の反亂に備ふる兵力を徒費せり。四百餘州の郡縣に連れる蒙古西藏が軍隊輸送本位の鐵道に統一さるゝに至りて支那は内地の爲の軍隊浪費を要せざるべし。是れ日支軍器製造會社と共に支那が統一的有機的一國たる根本基礎にあらずや。露西亞は單に圖上の色彩に過ぎざる西比利亞を有して鐵道を有せず。別言すれば獨逸より小國なるが故に破られたりと言ひ得べし。今の支那は鐵道の通ぜる地域だけの小國にして地圖の面積に係はりなし。不肖は確信す。五族統一の中華民國は一に唯日米經濟同盟に依る鐵道急設を以て實現すべしと。

陸軍當局が處置に苦しんで師團増設を唱ふる將校の増殖は西比利亞を支配し得べき國力の充實と支配せざるべからざる運命を指示する者なり。海軍當局亦案配に惱んで海軍擴張を叫ぶ將校の増殖は大西洋の英國に代はるべき太

平洋の其れの實力と運命を指示する者なり。二個の物體は同時に同一地位を占むる能はず。一の英國は他の英國を除去して其の領土を有せざるべからず。而して年々歳々増殖限りなき壯丁は日本の國籍を脱し日本人として死せずんば米國に入る能はず。國力の横溢は斯る效果なき死者を惜まず。然らば何ぞ彼等を北滿の野に死せしめし意義に於て英露擊攘戰に於ける護國の鬼たらしめざるか。正貨準備を英蘭銀行に監督さるゝこと袁世凱が五國銀行團に於ける如くなるよりも日露戰爭の戦費賠償金を得る能はざらしめし陰謀家に償金を課することは獨立國の威嚴を持つる正義にあらざるか。支那の如く凡ての收入を擔保とせる二十億の外借を帳消しとせば如何なる凡物も大藏大臣の局に當りて陸海兩省の國力横溢に答ふるを得べし。償金前渡しの開戦なり。而も足らずんば米に求むべし。彼は居ながらにして加奈太を獲得すべき大報酬あり。彼は加奈太の爲には比利賓群島の讓渡をも辭せざる者なり。

あゝ日章旗を欺かざる太陽の公平を以て米支兩國を照し、更に兩半球の凡てを照すべき大日本帝國よ。近時袁の背後に米資あるが故に日米開戦を避くべ

からざるかに迷ふか。何ぞ更に米の背後に青島攻撃を恨める獨逸と、國難に乗じて主位を奪はるゝことを含む英國外交の潜むことを想はざるや。太陽に向つて矢を番ふ者は日本其者と雖も天の許さざるところなり。日本は天地の正義に従ひて始めて太陽旗に守護せらるべきのみ。所謂獨探は所罰せらる。其位に在りて日獨戦争に陥れたる露探と、更に再び日米開戦に至らしめんとする英探とは、明治大皇帝の神靈が其の改悛を待たんが爲めに暫く刑の執行を猶豫し給ふことに三省せざるか。言ふ所の者は匹夫一輝なり。彼奴をして言はしむる所の者は天なり。天、日章旗を指さし、大日本帝國の名に於て諸公の嚴肅なる國際的正義に依る外交革命を要む。(大正五年四月末より五月末稿印刷配布)

敢て序す

岩田富美夫

日華兩國幾百萬の兵を動かし、戦線南北に貫きて壹千キロに及ぶ。正に之れ世界戦史上未曾有の大戦なり。

文を同じうし、種を同じうし、通幣の交誼壹千年を超ゆる兩國家が今不俱戴天の敵の如く鬪鬪し、屍山血河十省の山河を掩ふ。

而して是れ北一輝先生が革命外史の稿を脱して二十五年を閱するを思ふ時我徒撫然として天を仰き亞細亞經倫の歩々遅々たるを長嘆せざる能はざるなり。

第一次歐洲大戦の矛收まり、ヴェルサイユ假裝平和の蔭、英帝國は再び王者の夢に就きたる時、革命支那は將に第二沸騰の初期にありき。

孫、黃の經略は一度敗れて袁賊中原に號令すと雖も、民族覺醒の焰は地下に燃

え、新國家建設の鐘は青年國民の胸底に高鳴る。實に中國の歴史は革命の絶對過程に灼熱の歩を進めつゝありしなり。

然りと雖も當時の我が要路、何れも之れ俗耳低眼の徒、祖國の歴史に明治維新ありしを忘れて徒然として二世相續の安逸を樂しむ輩のみ。隣邦の袁賊的秩序を識つて澎湃たる革命の大機運を解察する能はず。民族精神の大潮流と市井無賴の蠢動とを混視せんとす。

北先生遂に黙する能はず、革命を解せざる者何ぞ明日の中華を解するを得ん我不遜を忘れて日本要路を訓ゆるの他なし」と慨然として筆を呵し、成るところ即ち支那革命外史の一卷なり。

時に上海の陋巷に在り、北先生の赤貧眞に削るが如し。先生黙々として想ひ致々として著はす。飢餓身邊に臻るを忘れ、志、晉東亞の千載を往來す。全精魂筆端に凝結して神人合一の至境に兀座すること歳あり。眞に經國の文を草する者の姿を時の北先生に視るを得たり。斯くして革命外史の一卷は成る。

書中述ぶる所は中國革命運動の經過にして、謂はんと欲するは革命支那建設

の將來なりき。果せる哉。十年を出でずして書中の斷案は事實となりて顯はれ來れり。廣東壺中の鬱結勢力は忽ちにして兩湖武漢を扼し、一轉して江南を席捲し、再轉して北上奉直を制するに至る。革命途上の難未だ其の實を充さざるものありしと雖も、民族國家建設の精神が中國の歴史に轉機を劃したるは眞に北先生が書中に叱呼したる處劃符の如し。

爾來星霜二十五有曆、亞細亞の事今奈何ぞや。兩國が大戦を交ゆる眞固實に英米の東亞侵略にあり。抑々白人の蹂躪より亞細亞大陸を救はんとする理想こそ實に支那革命の焰なりき。而して英米に依存して革命後半を成就せんとするに至りしは人の罪なる乎。將天の命なるや如何ともすべからざる歴史の矛盾なるか。兎もあれ亞細亞の悲しむべき運命を今や現實に經過しつゝあるは疑ふべくもあらず。

然れども現下の戦は巖固たる聖戦なり。世界戦史上嘗て前例の存せざるところなり。漢民族を敵とする戦にあらず、需めて奪はんと欲する戦にあらず、計りて利せんとする戦にあらず、勝ちて以て誇らんとする戦にあらず。唯之れ大

義を亞細亞に詢へ大道を日支に拓かんと欲する而已。

北先生外史の緒言に於て宣す、日本の爲めにあらず、又支那の爲めにあらずと。蓋し此の書全卷を貫流する精神の基調寔に茲にあり。

誰か知る、日本の爲めにあらず、將又支那の爲めにあらざる亞細亞の志、而して聖戰の大義は唯亞細亞の再建と民族の興隆を求むるのみ。

茲に我が日本道の世界史的展開あり。更に支那革命の最高段階あり。而して兩民族の合一する亞細亞の世界あり。

人智倭小、机上革命の戲論滔々風を爲す。現下窮乏の我が政治は固より亞細亞の道を反映するの器にあらず。獨り歴史の鐵鞭は中空に舞ふて亞細亞の明日を指示して息まず。而して聖戰の偉業は大陸千里の野に東亞新建設の巨歩を運ぶ。

嗚呼日本の爲めにあらず、支那の爲めにあらず、二十五年前北先生の巖々崇高の志や今にして聖戰の至高目標となり、戰雲漠々の間に兩民族の明日を照らすんとす。

北先生が經國の業、以て自ら大成の緒に就きたりと云ふべき乎。之を想ふて眼を瞑すれば、迥かなる地獄火山の一角上、孫、黃、宗、譚の諸豪と肘を交へて憂色の間に洪笑する北先生の幽姿髣髴たり。

昭和十五年晩夏

編輯後記

本書發行以來版を累ぬること六回、以て江湖の高需に應ぜしものと聞く。然るに最近書店の店頭に見ず、作今の社會情勢と睨み合せて考へるとき甚だ遺憾に思ふので、今回知友東洋學研究會の山本勝之助氏を煩して小生の手によつて普及版を剞劂に附することにした。洵に欣快の至りである。

本書の價値の具體的説明を發表する自由を今は持つて居ないが、北イズムの思想體系に於ける本書の占むる價値については今更嗽々贅言を要しない。

大西郷を城山に追ひやつた人々が、上野に大西郷の銅像を建てたといふ歴史的事實を強調して筆を擱く。

昭和十六年晚春

編者識す



大正十一年十一月十一日印刷
 昭和十五年九月廿八日改訂六版發行
 昭和十六年五月廿五日印刷
 昭和十六年五月卅一日普及版發行

普及版
 定價一圓八十錢

編輯者兼 北 大 輝	印刷者 大 橋 松 雄	印刷所 共同印刷株式會社
東京市杉並區和泉町一四三番地	東京市小石川區久堅町一〇八番地	東京市小石川區久堅町一〇八番地

發賣所

東京市神田區神保町三丁目二十九番地
 電話九段〇一九四番・振替(東京)三三六八番

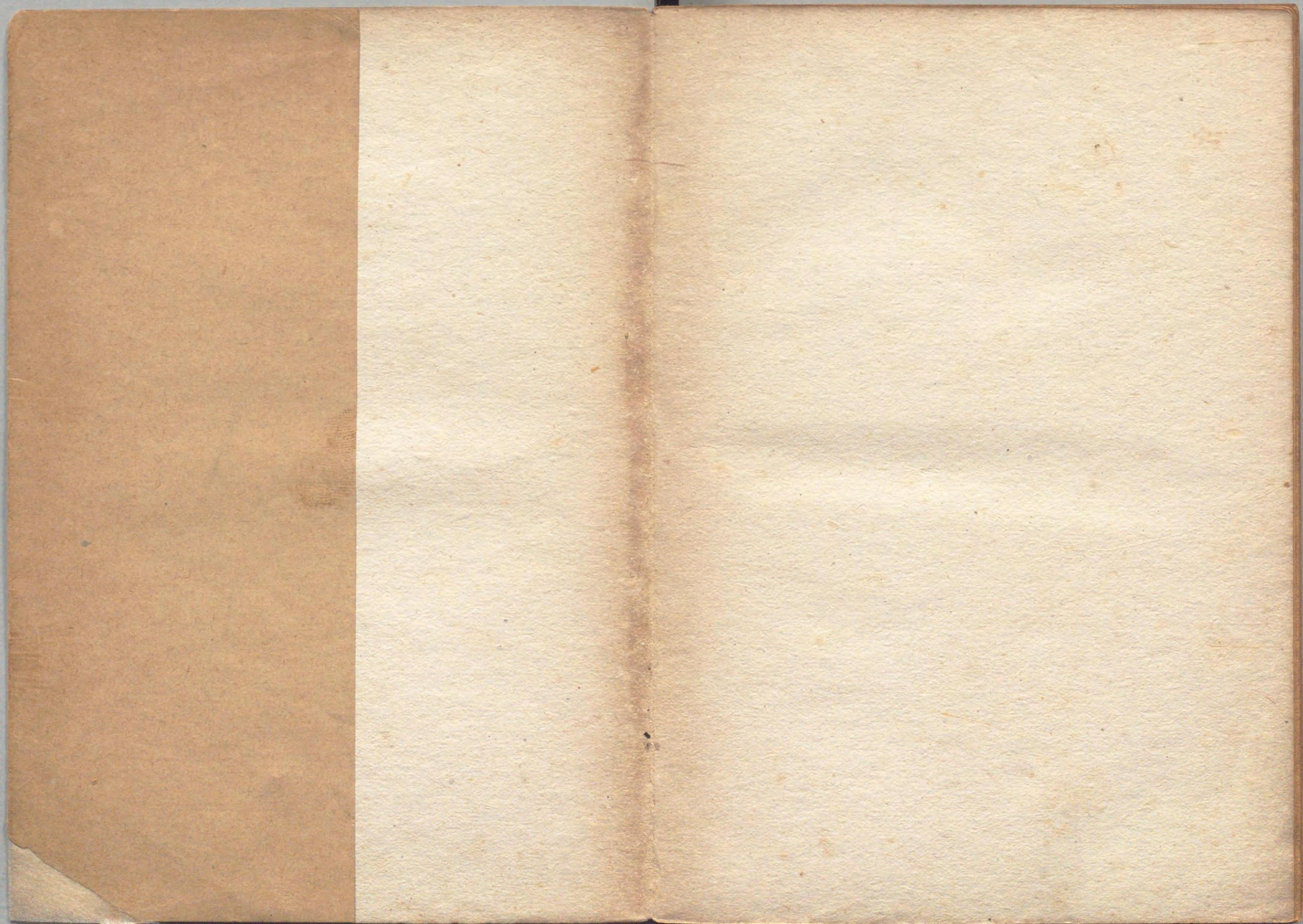
聖紀書房

KI-2P

-54

支那革命外史

四二六



2P-5X

1.80